「桜の樹」ニュースレター　vol 7

岡倉天心記念　がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」　2021.12

わに塚の一本桜

今年最後の「桜の樹」ニュースレターです。巣鴨のカフェにも参加して下った方が、今年新しいカフェをOPEN し原稿を寄せてくださっています。

『真の国際人』～「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物 ～

樋野興夫

内村鑑三（1861-1930）の『代表的日本人』（1894年）、新渡戸稲造（1862-1933）の『武士道』（1900年）、岡倉天心（1863－1913）の『茶の本』（1906年）はともに英語で書かれ、日本の文化・思想を西欧社会に紹介したものである。 英語で、日本（人）を深く、広く、丁寧に 海外に紹介出来た人物は、この 3人 ではなかろうか！　この3人は、「英語力 と 教養」を備えた 明治以降の 日本が誇れる人物である。 明治時代の3人の 「格調高い英語力」と「深い教養」と「高い見識」には驚くばかりである。100年後の現代に生きる我々は、「真の国際人の定義」を再考すべき時であろう。『真の国際人』とは、「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物であり、明治維新以降、「内村鑑三･新渡戸稲造・岡倉天心」は、『真の国際人』のモデルであろう！

目白がん哲学外来カフェぷらす

きつね

2021 年 7 月に目白がん哲学カフェぷらすを開設しました。目白がん哲学外来カフェに参加された方をきっかけにはじめた、「がん患者の子ども」を対象としたカフェです。

私が幼い時に母はがんに罹患しましたが、周囲にその事について話をできる人はいませんでした。母の誘いで樋野先生と面談し、現在カフェに参加しています。他の患者会や遺族会に参加したことはありません。私の場合、患者の子どもが患者会に行くのは敷居が高く、お世話になった病院の緩和ケアの遺族会は県外で遠く、遺族が患者会に参加するのは気が引けます。その点、がん哲学外来カフェは、どんな立場でも参加できます。正直、がん哲学外来カフェがなければ、がん患者の遺族である自分の面を、どこに晒せばよいのか分からず、困り果てていたと思います。話をしたいけれども、どこに行けばいいか分からずに悩む方に、ぷらすを知ってもらいたいです。

19 歳の時に樋野先生に出会い、もうすぐ 29 歳になります。その間に、母との別れがあり、カフェでの出会いがありました。これまで色々なカフェに参加しましたが、自分がカフェを任せてもらえる、ましてや、自分自身がカフェをやろうという気持ちになるとは、思ってもみませんでした。そんな決心ができるくらいに、この 10 年で自分が変わったと思います。

ぷらすをどんなカフェにしようかと、スタッフの方ともお話しています。
カフェの開設前後や、他の方からの意見や、日々の新たな発見もあり、考えはなかなかまとまりません。
先日参加した東久留米の武士道読書会で、樋野先生が新渡戸稲造や内村鑑三について「本物の人物はブレない」と仰っていましたが、自分はブレブレでどうしたものかなと思っています。今は 20 代の可塑性を信じたいです。
まだまだ生まれたてのカフェですが、初心を大切にしながら、
時間をかけてぷらすらしさを見つけて行きたいです。

ぷらすカフェホームページ
https://mejirogtcafe-plus.jimdosite.com

豊四季カフェ「そらとり」

小林　由紀恵

11 月に、柏に豊四季カフェ「そらとり」をオープンしました。妹の病気をきっかけに、樋野先生の面談を一緒に受けてから半年、何か大きな力に導かれるように、ここまでやってきて、気付けば第 1 回のカフェを無事終えることが出来ました。

「そらとり」は、表舞台に立たない所で、本当に沢山の方が力を貸して下さっています。一つ一つの力が、このカフェを開かせてくれたのだと思います。

「そらとり」の由来は、聖書の言葉　“空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか”（マタイ 6-26）　です。

空の鳥の様に、今日一日を一生懸命に、そして自分の力の及ばないところは委ねる、今日の苦労は今日一日で十分、明日の心配は明日すればいい･･･そういうカフェでありたいとの願いを込めてつけました。

そして、カフェには、“そらとりくん”というオリジナルのキャラクターがいます。何と、お友達の娘さんが考えてくれました。幸せの青い鳥をイメージして見て頂くと、思わず頬がゆるむのではないでしょうか。第 1 回のカフェの参加者の皆さんからも好評でした。

開催場所は固定せず、毎月 1 回、柏市内の近隣センターや、教会などで開く予定です。その場所ごとに、新しい出会いが増えることを期待しています。

私を応援してくれる、尊敬する友人 2 人を始め、みんなで、カフェが空っぽの、そして頑丈な器になる様にと準備しています。

病と向き合う時間は長く、向き合う気持ちも日々変化するのではないでしょうか。参加する方々がその時どんな想いでも、みなで同じ席に座り、安心して話せる、また来たいと思って頂ける場になるようにと思っています。参加者の皆さんが「そらとり」を育てて下さることに感謝しながら、続けていきたいと思います。ぜひ一度お越しいただければ幸いです。

安物買いのゼニうしない？。、！

ミニオン

日曜日。お天気の良い朝にお散歩。ぶらりぶらり。公園でガヤガヤ人が。フリーマーケットをやってました。車の奥の方にポツンとカメラ用三脚がありました。これは売り物ですか？。「お客様お目が高い。良い物なんですよ。」ガンガン話をしてきます。最後に私が「いくらなんですか。」「いくらなら買う。」商売上手いな。考えていたら。「1000 円でどうだい。」良く見ていたら肝心のところの部品が付いていません。「使い物にならないなー」よーし「500 円でどうだい。」私はゴキゲンで購入しました。インターネットで商品を調べたらかなりの高額品とわかりました。さらにゴキゲン。欠損している部品は量販店に行けばあるだろう。ところが甘かった。生産中止の商品。ネットで定価より数倍高く取引。あー～あ。「馬鹿な物買ってしまったあー。」でも安いから良いか。ダメ元で中古屋さんを巡りました。そーしたら。大特価品として。欠損が売っているではありませんか。

宝くじでも当たった気分です。

今年の「運」全部つかっちゃった。

でも今年も後数日か。

色々今年もお世話になりました。

来年は虎年。

強く行きたいな。

カラダもココロも。

ミニオンお宝を使って撮影中

そらとりくん

編集後記　　**さくら(かえる)**　コロナ禍カフェに参加できる方もできない方も、それぞれが話したい時に近況などを語っていただける場として、この「桜の樹」ニュースレターをはじめました。皆様が原稿を寄せて下さり、新しい出会いにも恵まれ、紙面上ではありますがカフェのように互いに力を分け合い、つながりを保ち続けることができました。今回はカフェを OPEN したお二人が原稿を下さいました、かえるはどちらのカフェも参加しましたが、穏やかで優しく愛の溢れるカフェです、これからも楽しみにしています。巣鴨のスタッフ・ミニオンはコロナ禍骨髄移植された後もユーモアをもって「今日、いまを一生懸命に」過ごされているご様子を寄せ続けて下さり、私達をいつも励まし続けて下さっています。ご協力下さった皆様に感謝申し上げます。来年もどうぞよろしくお願い致します。原稿お待ちしております（ケロッ♪）

かえる、ぷらすカフェでの１枚

編集：岡倉天心記念　がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」　山本　ひろみ

TEL 090-8501-0826　　gantetu_sakura@yahoo.co.jp　　https://sugamo-sakura.com/

後援：一般社団法人がん哲学外来